

方へ被進、室町殿依御意被執進、殊勝驚目、是一昨日鞍馬花御覽管領一獻申沙汰、盡善美云々、其破子等也、後聞内裏へ棚一脚、島御盃臺等被進、

〔永享九年十月二十一日行幸記〕其後室町殿御直衣に被改て、内々御參有、諸司の御跡の西の御六間において有一獻、島御盃の臺有、○中略 廿六日、御還幸之日也、先御會所へ成せ給て有一獻、島破籠造物御盃臺被置之、○下略

〔大内家壁書〕椀飯同御節并所々御出之事

一五日之御節之時、御折御盃之臺御樽進上有べからず、但御用之時進上あるべきよし被仰觸者、可有進上、時之體によるべし、

一何れの所へ御出之時も、折盃之臺樽つかはすべからず、是も時儀によるべし、○中略

文明十三年十二月廿六日

御評定

〔紹巴富士見道記〕所がら海士人の墨田河原、○駿河 庵原より丈室に入、小夜更て花やかなる盃の臺、和尚手づから持出給ひ、漢和一折有てねぬる、

〔太閤記十五〕大明より使者之事

一唐使へ五月○文祿三年 廿三日御對面之事

三獻 折等種々 御盃臺

〔槐記續編〕享保十六年三月十六日、頭中將殿ノ御ハナシニ、コノゴロ關白○藤原家久 へ御料理ヲ上シニ、盃ノ臺ヲ物ズキニテ、桃ノ枝ニ實ノナリタル處ヲ臺ニシテ獻ゼシヲ、御褒美ニテ、後段々關白公ヨリノ御馳走ノ御料理ノ節、又右ノ臺ヲ出サレシ程ニ、イカナル故ニヤト思ヒシガ、難波ヨリ杯ヲ取始メラレシカバ、盃ノ下ニ紙ニ包ミタルモノ、アリシ程ニ、タシカニ御詠ナルベシト思テ居シカドモ、誰取上ベキヤウモナク、皆々讓リ合テ辭セシカドモ、難波ガ盃ヲトラレシユヘニ、